

横澤 優（よこざわ・まさる）先生

株式会社アソジア 代表取締役

1988 年 明治大学卒業後 株式会社ポニーキャニオン入社
1995 年 香港ゴールデンポニー上海事務所首席代表
1997 年 ポニーキャニオン台湾董事総経理
1998 年 ロックレコード株式会社代表取締役
2003 年 株式会社ボーダレスグローブエンタテインメント
代表取締役
2006 年 北京禾風楽網音像科技有限公司董事総経理
2010 年 株式会社アソジア代表取締役



〈講義概要〉

株式会社アソジアの代表取締役として、アジアにおける日本のアーティストのビジネス展開に携わる横澤優氏が、中国コンテンツ産業の最新状況について講義を行った。

講義ではまず、世界の音楽ビジネスの現状について、原盤権や出版権から収益を得る「著作権型ビジネス」からアーティスト自身が動く事で収益を得る「本人稼働型ビジネス」へシフトしていることを解説し、インターネットの発展に伴い、音楽業界の利益構造が大きく変化したことを示した。続いて、中国のコンテンツビジネスの歴史と現状について、インターネット・音楽・テレビ・映画・アニメの面から詳しく説明し、あらゆるコンテンツが政府に管理・統制されている実態や国内のコンテンツ産業が隆盛するように優先される「国内利益優先主義」の経済政策について解説した。また、中国の音楽著作権管理についても説明し、強制徴収力の乏しさや分配の不透明さといった問題点を示した。

さらに、日本人アーティストの海外展開において、戦略的なローカライズによるビジネス展開が重要であり、定期的に現地を訪れて現地の言葉で歌うといった、アーティスト本人がローカライズの意思を持って活動することが大切であると言及した。

中国コンテンツ産業の現状を踏まえた上で、日本のコンテンツ産業はどのようにあるべきか、今後のあり方と可能性についてグローバルな視点で考える機会を与えた。

《受講生の感想》

● すぐ近くの国であるが日本と状況が大きく異なっており、知らなかったことが多かったので驚きました。しかし、中国は情報の遮断、規制、禁止などが多く、情報公開、入手の自由度が低いことが非常に印象に残りました。また、近年の中国における著作権の現状について知識を得ることができ、非常に興味深かったです。今後の中国のコンテンツ産業の動向に注目していきたいです。 立命館大学・産業社会学部・3 回生

● 中国のコンテンツ産業を中心にお話していただいたが、インターネットに関して、独自の検索エンジンや動画サイトがあるなど、自己利益を第一に考えていることが良く分かりました。TVでもネットでも中国政府の厳しい検閲が圧力をかけている状況が分かりました。著作権・著作隣接権などに関することは、本当に工夫を凝らして展開していかなければならないのだと感じました。 立命館大学・映像学部・2 回生

● 中国のコンテンツ産業の現状を学び、これだけ難しい環境で日本の音楽が普及するためには、講義の中でもおっしゃっていた「ローカライズの意思をアーティストが持つ」ということ、「国を越えた人との繋がり」が本当に重要なのだと、印象に残りました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

● 中国では著作権型ビジネスから本人稼働型ビジネスに移行しつつあることを初めて知りました。また、私たちが当たり前のように世界中の情報をインターネットで得ているのに中国ではそれができないということに驚きました。中国がもっと自由に世界中の情報が入るように解放されたら、どのような変化が起きるのか興味を持ちました。 立命館大学・法学部・3 回生

● 世界中の人々が使っていると思っていた Facebook や Twitter を厳しい検閲のために利用することができないなど私たちが常識だと思っている社会とは全く違う発展の仕方をとっているのだと感じました。中国のデジタル・メディア・コンテンツは世界的に開かれていないことが分かりました。ビジネス的にも表現的にも閉ざされた中国においては、普通のビジネス展開は適応せず難しいと思いました。

立命館大学・国際関係学部・3 回生

● 中国の自国利益主義というのは本当にすごいと思いました。日本の自由なコンテンツを考えると中国は管理下で成長していることが分かりました。中国の中で日本のコンテンツ産業を広げていくには全く難しいことだと思いました。アジアの同じ国だけだと考えがそれぞれ違うということを本当に痛感しました。

立命館大学・文学部・3 回生

